

### 3 法人化による経営の安定化とブランド化への展開

- 基盤整備を契機に設立された「農事組合法人本戸営農組合」へ農地集積(H16:8%→H22:95%)し、経営の一元化により体質が強化
- 水稲、麦、大豆の2年3作に野菜を組み合わせた周年栽培が可能になり、経営の安定化と新たな雇用を創出
- 家族経営から法人経営への転換により、これまで補助作業を担ってきた女性達による特産品開発等6次産業化に向けた取り組みが活性化

#### 取組前

##### 小区画で狭い農道

- 10a程度の小さい区画
  - 幅員1.8m程度のほ場内農道
  - 用排兼用水路
- ⇒大型機械の導入や畑作物の作付に支障

##### 経営難・担い手不足

- 小規模零細農家が多く、経営の合理化、近代化の遅れ
- 経済的に有利な他産業への人材流出



整備前の農地と農道



整備前のほ場

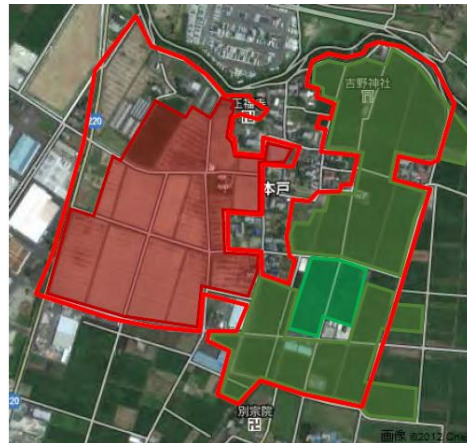
#### 取組内容

##### 農地の区画整理と汎用化

##### 【経営体育成基盤整備事業 輪之内本戸地区】 (H16~H22)

- 事業内容
 

整地工	22.5ha
道路工	2.6km
用水路工	4.6km
排水路工	5.0km
暗渠排水工	20.8ha
- 区画整理による大区画化(標準区画1ha)
- 用排水路の分離及び暗渠排水設置による農地(水田)の95%が汎用化



##### 整備後のほ場(H27作付状況)

- :大豆(9.7ha)
- :水稲(10.5ha)
- :ブロッコリー(1.2ha)

##### 集落営農組織の設立

- 基盤整備を契機に平成16年に集落営農組織を設立
- 平成21年5月に地区全20戸が参加する営農組織として法人化(農事組合法人)

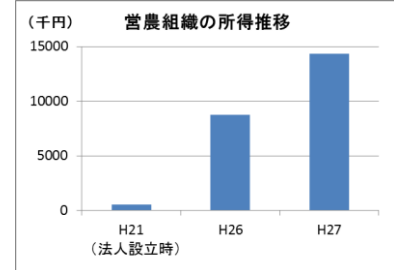
#### 取組後

##### 経営の多角化

- 区画が拡大し、大型機械の導入が可能となったことで、農地利用集積が促進され、事業を契機に設立された法人に地区内の約95%の農地が集積
- 農地の汎用化等により、ブロッコリーなどの高収益作物の導入が可能となり経営が安定化
- ブロッコリーを安定栽培することで地区内の退職者及び主婦層の雇用が創出
- 有機肥料や減農薬、地下水を使うなど品質にこだわったブランド米(徳川将軍家御膳米)が生産



ブロッコリーの定植



##### 女性の力を生かした6次産業化

- 本戸地区女性会議が中心となり、地元産サツマイモを使用した「さつまいもケーキ」等の地域の農産品を使った特産品を開発し、地域のイベントで販売



さつまいもケーキの袋詰め



さつまいもケーキ(1個100円)



**◆事業計画について**

○組合員の半数が地区外者であり事業実施の合意形成に苦慮



**きっかけ**

零細兼業農家を  
中心とした集落  
の現状に対する  
不安

**Step1 (H14~)**

**事業計画の協議**

○大型機械導入による近代的な集落営農を目指し、県営での再ほ場整備事業計画を関係農家により協議、平成16年度に本戸土地改良組合を設立

**Step2 (H16~)**

**ほ場整備の実施**

○区画整理や農道・排水路、圃場の汎用化のため暗渠排水等の整備を実施  
○整備事業を契機に集落営農組織を設立

**Step3 (H17~)**

**地域の活性化**

○地区住民と共にアジサイを約6000本定植・整備し、平成21年度より毎年6月にあじさい祭りを開催、田んぼアートも披露  
○カワバタモロコをはじめとした生態系保全を推進



**◆農産物のブランド化**

ブランド米「徳川将軍家御膳米」(5kg: 3000円)

○H19より水稻（ハツシモ）の農薬・化学肥料を30%削減し、「ぎふクリーン農業」を登録  
○H25より「徳川将軍家御膳米」と名付けブランド化し販売

**Step4 (H18~)**

**6次産業化への取り組み**

○本戸地区女性会議が中心となり、地域の農産物を使用した特産品（H20：おからドーナツ、H21：さつまいもケーキ等）を開発し、地域のイベントで販売

**将来に向けて**

○ブランド米の生産や高品質な大豆栽培、ブロッコリーの経営規模拡大等、営農組合による、より魅力的な農業経営を展開する。  
○農作業の繁忙期に地区住民を臨時作業員として積極的に雇用し、地域の活性化を図る。  
○農業経営について隣接する地域と連携して運営等の情報を交換し、広い範囲で地域農業の振興を図る。

**今後の展望**

**Step6 (H21~)**

**営農組織の法人化**

○集落営農組織を地区全戸が参加する農事組合法人に法人化  
○区画拡大により大型機械での営農効率が向上し、営農組織に地区内の95%の農地を集積

**Step5 (H20~)**

**複合的営農体系の確立**

○排水対策の強化によりブロックローテーション方式による水稻・麦・大豆の2年3作体系と野菜の周年栽培を加えた複合経営を導入  
○H21よりブロッコリーの作付を開始